

科目名称：	音楽表現指導法Ⅱ	
担当者名：	西方 彰	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>前期は基本的な動き方等中心の授業であったが、後期からはより実践的に打楽器等を用いて練習曲やアンサンブル曲でドリルフォーメーションを作っていく。実際にそれらを体験することで、幼児に対する指導ポイントの理解、アンサンブルすることの大切さやチームの一員としての責任や協力関係を作っていくなど、様々な体験により指導や仕事の進め方など、実際に現場で役立つ能力を高めていくものである。又、ミュージックフェスティバルに向けて自分が得意とする楽器や手具を使い、自分自身の最高の音楽表現を行うことで、充実感や達成感の喜びを子どもたちに伝えることのできる、感性豊かな表現力を身につけていくものである。後期、最初の方は打楽器の演奏の方法を習得し、その後から発表に向けての授業形態となるため楽譜等を持ち帰り、練習が必要な場合がある。(楽譜は適時配布)発表曲の練習を進めていく上では各パート、打楽器・管楽器・鍵盤楽器・カラーガード等でのグループ練習が必須であり、その為のディスカッションや到達目標をドラムメジャーを中心に行い、受講者たちが主体的に作り上げていくことが大切である。担当講師は其中で適時にアドバイス等を行っていく。尚、この授業は音楽をマーチングという方法を使って、多彩な表現方法を体験、研究していくものである。よって、より楽しく明るい演習を目指している。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
発表会に向けての練習を通じ打楽器の奏法を習得し、マーチングの作成過程を体験しながら各セクションの完成度を高め、全員が一体感を持って作り上げることを目標とする。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身につけている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身につけている。	○

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)				100	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容 (内容・経験年数を記載)	
あり	《内容1》 各地幼稚園、保育園への音楽指導	《経験年数1》34年
	《内容2》 各地幼稚園、保育園へのマーチング指導	《経験年数2》34年
	《内容3》 一般社団法人日本マーチングバンド協会公認 指導員	《経験年数3》33年
	《内容4》 小中高校、一般のマーチングバンド指導	《経験年数4》36年

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
打楽器の基本的なスティックの持ち方、音の出し方の理解	打楽器の経験がある無しに関わらず積極的に取り組んでリズム等が正確である	打楽器の経験がある無しに関わらず積極的に取り組んでいる	打楽器の経験がある無しに関わらず積極的に取り組んでいるがリズム取りが不正確	打楽器の経験がある無しに関わらず消極的である
打楽器を体につけた状態での実践的なフォーメーション	フォーメーション等の動作に於いては楽器の重さを感じさせずに正しく動いている	フォーメーション等の動作に於いては楽器の重さを感じさせているが演奏が正確である	フォーメーション等の動作に於いては不正確であるが前向きに努力している	フォーメーション等の動作に於いては不正確で演奏面も不安が多い
発表曲の練習	自分の担当楽器について練習を積極的に行いパートをまとめている	自分の担当楽器について練習を積極的に行なって暗譜なども早い	担当楽器について練習を積極的に行なっているが自分の事だけで精一杯になってしまう	担当楽器について練習が疎かである。他人を頼ってしまう
発表曲の完成度	フォーメーション、振り付け、演奏全てが素晴らしい状態になっている	フォーメーション、振り付け、演奏が概ね正しく行われている	フォーメーション、振り付け、演奏が積極的である	フォーメーション、振り付け、演奏が覚えきれてなく不安定である

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間
第1回 練習曲による打楽器の演奏練習① (リズム室)	バチの持ち方や叩き方を予習をして、まとめておく	30分
第2回 練習曲による打楽器の演奏練習② (リズム室)	数打ち、ドラムマーチの練習をして、まとめておく	60分
第3回 発表に向けたパート決め (リズム室)	ドラムマーチの復習をして、まとめておく	60分
第4回 発表曲パート練習① (リズム室)	配布楽譜の練習をして、まとめておく	30分
第5回 発表曲パート練習② (リズム室)	配布楽譜の練習をして、まとめておく	60分
第6回 発表曲パート練習③ (リズム室)	各パートの練習、暗譜しておく	60分
第7回 発表曲合奏練習① (リズム室)	各パートの練習、暗譜しておく	60分
第8回 発表曲合奏練習② (リズム室)	合奏に向けての練習をしておく	60分
第9回 発表曲合奏練習③ (リズム室)	合奏に向けての練習をしておく	60分
第10回 発表曲を用いたドリルフォーメーション① (リズム室)	フォーメーションを覚えておく	60分
第11回 発表曲を用いたドリルフォーメーション② (リズム室)	フォーメーションを覚えておく	60分
第12回 発表曲を用いたドリルフォーメーション③ (リズム室)	フォーメーション、演出、振り付けを覚えておく	60分
第13回 発表曲を用いたドリルフォーメーションの演出 (リズム室)	フォーメーション、演出、振り付けを覚えておく	60分
第14回 発表のまとめ (プレゼンテーション)	完成度を高める技術の練習をしておく	60分
第15回 全講座のまとめ (教室)	教科書についての整理をしておく	10分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 発表曲実技到達度60% 課題に対してチームへの貢献度40%の総合評価		
課題に対するフィードバック		
発表曲の合奏や演技を口頭によるアドバイスやコメントで、フィードバックする		
教科書・参考書		
教科書： 「幼児のマーチング改訂版」 西方 彰 自著 毎回使用します。		